連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

好地合いだからこそ資金効率の追求を！

先々週の前回コラムでも「外部要因好転とともに株価指数の出直りも進むなかで、買いの好循環が効くのではないだろうか」「ここは時間軸を伸ばして中期保有に適した銘柄を仕込んでみたい」と決算シーズン一巡後の地合い好転を示唆していたが、株価指数が上値追いを強める活況相場が到来した。

この度の地合い好転には、200日移動平均線など株価指数の転換点突破、ギリシャ問題など外部要因の進展や当局の金融政策が重なった面があるものの、もちろん前回で指摘した日程面での決算発表の一巡も作用しているのではないか。

過去の傾向からして、金融緩和を切っ掛けとした過剰流動性相場は息の長いテーマとなり得る。

株価指数の上伸に比例するように、投資家心理も強気に傾いてきているが、活況相場だからと安易に投資対象を選ぶと「後追い売買」になりやすく、高値掴みを繰り返して投資収益は安定しない。

今後は「投資収益を効率的に伸ばし得る最適な物色対象」を選別する局面と見る。

そこで弊社では「資金効率」に着目した「厳選5銘柄付き市況分析レポート」を発売する。

好地合いで活発な資金循環が期待でき、値幅取り妙味に優れる「低位株」「仕手系株」を厳選銘柄としたい。

このレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせてほしい。